

日本共産党・あおぞら豊岡市会議員団視察報告書

視察日程 2020年2月18日(火)～19日(水)

視察先 2月18日(火) 大分県日田市

2月19日(水) 福岡県大牟田市

視察目的

大分県日田市 移住定住促進事業 その他

福岡県大牟田市 高齢者向け住宅 その他

視察者 奥村忠俊、村岡峰男、上田伴子

◎大分県日田市（人口64,733人）

概況 大分県日田市は、北部九州のほぼ中央に位置し、福岡県、熊本県に接した地域である。周囲を阿蘇・九重山系や英彦山系に囲まれ、これらの山系から流れ出る豊富な水が日田盆地で合流している。日田水は日田天領水として有名である。

★「人口ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略（H27～H31）」

1 基本目標

- ・安定した雇用の創出
- ・新しい人の流れをつくる
- ・若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ・人が共に支え合い、安全・安心で快適に暮らせる地域づくり

2 日田市の取り組み

①「ひた」に住みたくなる人の流れをつくる移住奨励金制度を活用した移住者数目標は平成27年～令和元年で800人（年160人）に対し、平成28～平成30年度の取り組み成果は722戸1221人（うち県外からの移住者521戸854人）とおおよそ2倍の移住者を確保している。

②若い世代の結婚・出産・子育て事業

婚活イベントとして年4回程度の開催だが、平成30年度は15回に及んでいる。成婚した場合、結婚新生活支援金給付数は平成29年度16件、平成30年度28件に及んでいる。

③市の発行するガイド【あなたのひた暮らし応援します】

ガイドブックには（日田で子育て）（日田で働く）（日田に住む）の3項目については、日田に移住し暮らしていくうえで考えられる必要な支援策が網羅さ

れており、市の予算はもちろん、県からの支援も得ながら多くの移住定住者を獲得している。特に（日田で働く）政策にはあらゆる職種に補助金等が保証されている。

④日田市への移住者の状況

日田市では同じ境遇にある移住者交流会が進められている。移住者とサポーターが繋がり、困ったときに支え合える関係づくりを目的に開催された集いには43名の参加があり（うち33名が移住者）交流も始まった。

また、移住者相談会in日田天領祭りの開催、ひた移住女子会にも移住者と地元の人たちとの交流が進んでいると云う。参加者からの感想は「同世代の同性と知り合う機会がなかったので良いきっかけになった」「友達が増えた」など、参加者同士の繋がりができたことへの喜びも語られている。



⑤日田市は九州の内陸部に位置し、温暖な気候と風土、日田天領水、温泉など自然環境に恵まれ、大都会にも比較的近く電車交通の便も条件として非常に優れていた。

◎福岡県大牟田市（人口114,370人）

概況 福岡県大牟田市は九州の中部に位置し、西は有明海に面している。かつて三井三池炭鉱の石炭資源を背景とした石炭化学工業で栄え、1959年には最大人口208,887人を有したが、エネルギー革命により衰退、同炭鉱も1997年閉山した。2019年人口は114,496人、高齢化率は36.3%。

一方で同年、フォーブス誌「世界の最もきれいな都市トップ25位」に選定された。また、毎年7月下旬の「おおむた『大蛇山』祭り」には、40万人が訪れている。2015年三池炭鉱宮原坑・専用鉄道敷跡・三池港が世界遺産に登録された。

★高齢者等の円滑な居住確保促進事業

1 「大牟田市居住支援協議会の活動」

- ① 大幅な人口減と高齢化率の急速な増加により、かつての大牟田市が著しく寂れ、空き家の急増と老朽危険家屋対策は喫緊の問題になっていた。

一方で、高齢者、障害者、低所得者、母子世帯、生活保護世帯などが増加、生活基盤となる住宅を円滑に確保できない問題が発生している。

同時に、住宅を管理する不動産業者からも深刻な問題として声が出ていた。高齢者になり、出来ると思っていたことが出来ない。認知症、孤独死、家財道具の整理などの問題が発生するという。様々な声を集めると、保証人の代行、見守り、その他の相談など、地域に生活支援をしてくれる、何かが（誰かが）あれば助かるのに、安心して貸せるのにとという声もあった。そこから空き家の有効活用と見守り支援の仕組みについての研究・検討など本音の議論が始まっている。

さらに老朽危険家屋を撤去しながら、空き家の有効活用の方策の一つとして、借りる側のニーズに着目し、住宅確保要配慮者が住宅を円滑に確保する仕組みを構築していく必要もあった。

- ② その対応策として、不動産関係団体、医療福祉関係団体等、住まいに関する課題を共有し、協働して住宅確保要配慮者への居住支援に取り組む必要性が生じ、「大牟田市居住支援協議会」（大牟田住みよかネット）が設立された。

- ③ 「大牟田市居住支援協議会」は、空き家の実態調査と情報収集、及び分析。シンポジウムの開催、空き家所有者への意向調査、相談体制の構築、相談マニュアルの作成、空き家活用方法など時間をかけ綿密に実態を把握している。

また同協議会の特徴は「空き家を活用（流通していない空き家に着目）」「家賃は家の維持費程度（敷金・礼金なし）」。事務局を市と社協が担うことで、様々な相談を包括的に受ける（居住・生活支援）、市民ニーズに迅速な対応（予算措置）、生活相談やフォローなど行っている。

- ④ 平成27年には住まい方提案モデル事業・空き家活用方法研究として「サロン田崎」開設、運営は校区住民で設立した「NPO法人しらかわの会」があたり、音楽会、サロン活動などが行われている。（残念ながら平成29年3月で事情により終了。）

- ⑤ 大牟田市居住支援協議会の活動

平成25年度

- ・ 空き家の実態調査及び分析
- ・ 校区别・老朽度別空き家個数調査

平成26年度

- ・ 空き家情報の収集（無料相談会実施）

単なる不動産の相談でなく、福祉・法律関係の専門家も同席し活用策を考える。

- ・高齢者住まいシンポジウム
- ・空き家活用方法研究等の実施（サロン田崎）

平成27年度

- ・空き家所有者向けの意向調査
- ・空き家にかかる年間の維持・管理費

平成28年度

- ・空き家活用方法研究等の実施

⑥ 空き家の実態把握

- ・空き家の実態調査（活用可能物件）、空き家活用における地域住民の意識調査、空き家再生と医療・福祉の連携。

⑦ その他、住宅以外の相談についても対応されている。

- ・子どもの引きこもり
- ・生活困窮（病院の治療費が支払えない）
- ・単身の認知症高齢者（入居には支援体制が必要）
- ・相談者本人の障害
- ・家族関係、DV被害
- ・税金・家賃の滞納
- ・計画性の欠如



◎ 視察を終えて

今回の視察は、どこの自治体でも共通する移住定住の在り方、悩みや取り組み実態について学ぶことにあった。

課題は人口減が急速に進む中で、自治体の在り方・人々との暮らしが問われているように感じた。大切なことは「この街に」育ち、生き暮らす市民に対してどこまで行政は責任を持つのか。また、「この街に」生活を求め新しく市民になった人々に対してはどうか。我々自身がしっかり考えなければならないことを痛感した視察でもあった。